

2007年 平成19年

4月23日

月曜日



天気	6	9	12	15	18	21(時)	
札幌	☀	☀	☀	☀	☀	☀	15 3
室蘭	☀	☀	☀	☀	☀	☀	12 4
苫小牧	☀	☀	☀	☀	☀	☀	10 3
小樽	☀	☀	☀	☀	☀	☀	13 3
旭川	☀	☀	☀	☀	☀	☀	14 1
函館	☀	☀	☀	☀	☀	☀	13 4
釧路	☀	☀	☀	☀	☀	☀	8
東京	☀	☀	☀	☀	☀	☀	26 13
大阪	☀	☀	☀	☀	☀	☀	20 12

朝日新聞北海道支社 発行所:〒060-8602札幌市中央区北2条西1-1-1
電話:011-281-2131 www.asahi.com

過労の常態化 医療後退憂う

小児科医 佐山 圭子
(東京都杉並区 43歳)

過労からうつ病になり自殺した小児科医の行政訴訟で東京地裁は3月14日、労災と認定したが、同じ医師の遺族が起こした民事訴訟

では同月29日、過労を否定する判決が出た。私は「病院に殺される」と家族に訴えていた医師の思いと、問題を広く世に問うために原告支援をしてきたが、同じ地裁で正反対の面判決に、司法への不信感が残った。

医療など他人をケアする仕事は、自分自身の心身が健康であることが非常に大事だ。私は同医師が亡くなる半年前まで同じ職場にいた。私がそこを辞めたのは生後半年の乳児を含む子供2人を抱えて、月最低4回の当直つき勤務は無理、と判断したためだ。勤め続けるより辞めた方が補充が望めるとあきらめたのだ。しかし、6人いた常勤医が3人に減っても補充はなく、病院は夜間小児救急日を減らすこともしなかった。

一般の会社ではありえない、医師の日勤、夜勤当直と続く32時間勤務は常態化している。志を持ち、まじめに働く医師を守るのは本人以外にないのか。献身的に頑張る医師を国や病院が守らないでどうするのか。

退職者が増え、現場が崩壊していく悪循環は止まらない。東京地裁の民事訴訟の判決で、医療が後退するのではと危惧している。